

## 第4回 史学科卒業論文優秀賞

史学科では令和元年（二〇一九）年度から、優秀な卒業論文を表彰する試みを始めました。従来、卒業論文の成果は各ゼミ内でのみ共有されていましたが、それを学科全体で共有しようという試みです。

今年度も口頭試問担当教員から推薦された優れた卒業論文を学科の教員全員で審査しました。その結果、以下の三編の論文が優秀賞に選ばれ、二〇二三年三月二〇日（月）、神戸ポートピアホテルにおいて行われた学位記授与式で表彰されました。

### ◇寺尾春香（日本中世史・梶木ゼミ）

「王法仏法相依論の成立と展開」

#### 〈受賞理由〉

この卒論は、王法仏法相依論に関する近年の研究史を整理した上で、次のように自らの見解を述べている。王法仏法相依論は、その成立段階においては王法と仏法が一对の概念として主張されるにすぎない。しかし、その

展開過程で、仏法側だけでなく王法側も、その論理に基づく政治的行為を行なった点を重視する。つまり、王法仏法相依論はここに至って正統性を持ったとする。

難解な課題に真摯に取り組み、主要な史料の正確な読解と解釈を明記し、簡潔な筋道で要旨をまとめあげた点を高く評価したい。あえて言えば、その論理展開の政治的・社会的背景が具体的に展開されていれば、より一層説得的な論文となった点を指摘し、講評とする。

（文責 梶木良夫）

### ◇長岡万柚子（日本近世史・村田ゼミ）

「幕末期京都における治安維持

——会津藩および新選組の役割を通して——」

#### 〈受賞理由〉

本論文は、幕末期京都における治安維持の特質を明らかにしたものである。従来、幕末期京都の治安維持体制の概略や新選組の活動内容については、ある程度明らかにされているが、新選組以下、治安維持に関与していた諸組織のそれぞれの具体的役割や、各組織間の関係、また各組織に対する京都守護職松平容保の指揮・命令権に

ついては、明確でない部分が多かった。

本論文は、元治元年（一八六四）六月の池田屋事件を詳しく分析するという方法により、これらを明らかにした。新選組や池田屋事件は、とかく興味本位的に取り上げられることが多いが、本論文では新たな分析方法を示しており、その点でも大いに評価しうるものである。

（文責 村田路人）

◇堀遥香（西洋史・吉村ゼミ）

「中世後期プロイセンのドイツ騎士修道会」「国家」の衰退―シュテンデの台頭と都市のバルト海交易における商業活動―」

〈受賞理由〉

本論文は、中世後期におけるドイツ騎士修道会「国家」の衰退を、同修道会の支配領域にあってバルト海交易を担っていたドイツ諸都市の商業活動研究の近年の成果を手掛かりに、独自の視点から再考したものである。騎士修道会と、これに対立したシュテンデとプロイセン同盟の關係に議論は絞り込まれているが、プロイセンにとどまらず、中欧・東欧の広範な地理的領域を視野に入

れ、政治情勢や宗教、経済圏とその連関にも細かく目配りがされており、中世ヨーロッパ史特有の課題にも真摯に向き合ったうえで、の帰結であることがうかがえる。欧文の一次史料や最新の研究成果を活用し、学外の研究会にも参加するなど、積極的な学究姿勢が反映された完成度の高さは、卒業論文としてはきわめて高い評価に値するものである。

（文責 吉村真美）